The Honolulu Advertiser
HAWAI'I'S NEWSPAPER • HonoluluAdvertiser.com

Focus / the art　　1984 年 11 月 21 日（水）

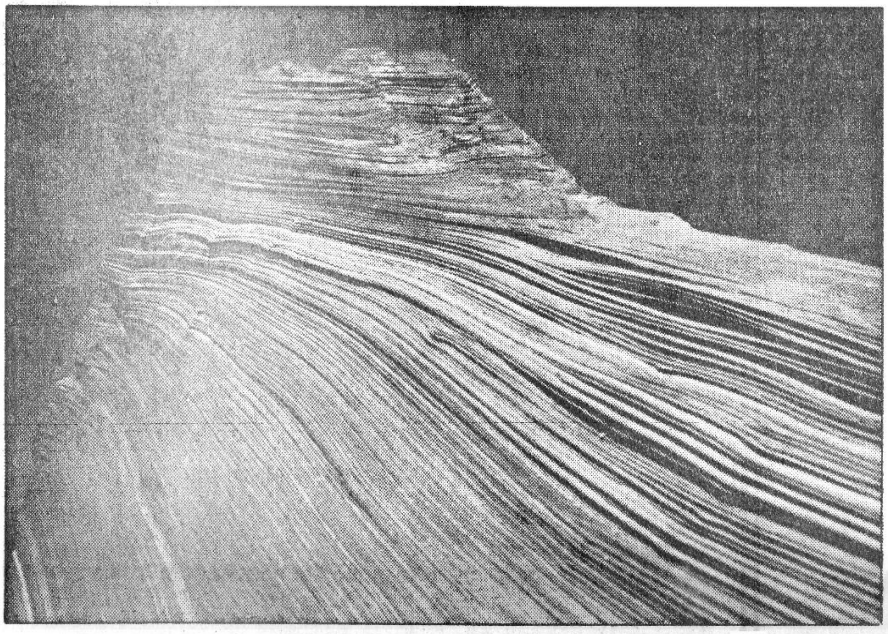
ポーズをとる角永和夫
現代の芸術センターに
ある大きな挽き杉の丸太。

木 Wood

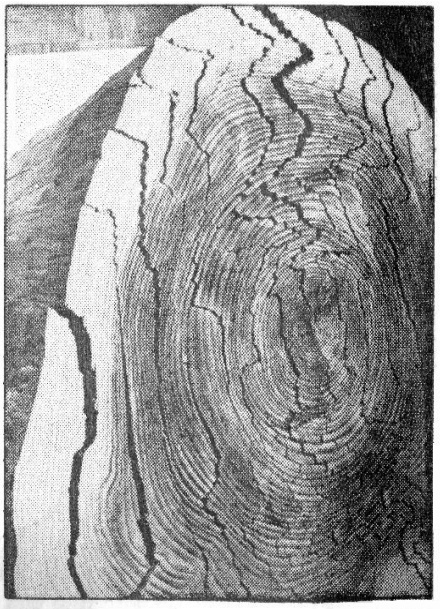
文・アートライター　**Ronn Ronck**

今では 80 年以上もの間、角永一族は石川県で大きな製材所を経営してきました。
まだ若い頃、1946 年に石川県で生まれた角永和夫は、木の好きなところがありました。 彼は大人になり、父親や兄弟のような製材業者になるとみなされていました。
彼はしませんでした。

「代わりに私はアーティストになりました」と角永はにやにや笑いながら説明しました。
「しかし、森から完全に逃げることができませんでした。 それで、私は木の芸術家になりました。」　1970 年代初頭の最初の展覧会以来、角永の木材、竹、手作りの紙の作品は、日本中、ヨーロッパ、米国本土で展示されてきました。 今夜の午後 7 時から 9 時までのレセプションから始まり、アーティストの作品は、ニュースビルのコンテンポラリーアートセンターで初めてハワイで展示されます。　6 つの大きな杉の丸太を含む 12 の例が 1 月 2 日まで展示されます。ギャラリーは、ニュースビルディングの 1 階、605 Kapiolani Blvd にあります。 時間は午前 9 時から午後 5 時までです。
「これらの大きな丸太のいくつかは、約 80 年前のものです。それは、私の家族が製材業に入るのとほぼ同時に成長し始めたことを意味します。彼らは多くの歴史を目の当たりにしています。」
通訳の角永を通して。 彼はより伝統的な芸術形式で始めたと説明しています。　彼はもとも



Looking like a striated desert landscape, this cedar log has been sliced vertically into 1/32-of-an-inch veneer layers. Photo looks along trunk toward bottom.



Straight splits started on the other side of this cedar cross-section became jagged by the time they reached this side.

と画家になりたいと思っていましたが、「他の人はよりよく絵を描く」ことを発見しました。

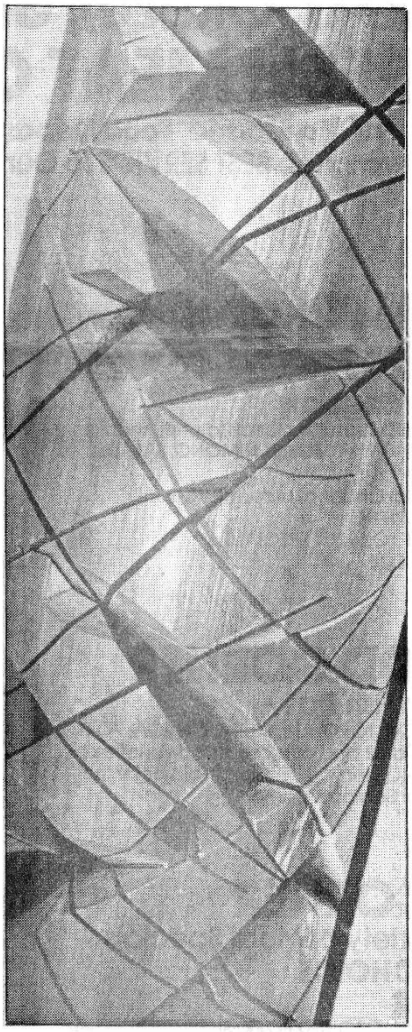
同じ頃、彼は製材所を訪ねて家にいて、彼の媒体が彼のために選ばれたことに気づきました。　彼はログをスタジオに持ち帰り、実験を始めました。

「私が見つけたのは、木が私の真のアーティストの個性を引き出したからでした」と彼は言います。　だれも他の人は私がやりたかったのと同じことをしていて、それをやって幸せでした。」

現代美術センターの展示品は、樹皮が剥ぎ取られ、磨かれ、切り刻まれ、挽かれています。真ん中あたりのデザインでカットされているものもあれば、縦にスライスされているものもあります。 現在のショーの１つのログは、1/32 インチのベニヤレイヤーで上から下にカットされ、再び完全に接着されます。

「私が仕事で探しているのは、特定の樹木の定義です。

この樹木は他の樹木と何を共有していますか？何が違うのですか？すべての生物、植物や動物には魂があります。 そして私の芸術は私の芸術を通して木の魂を明らかにしています。」



Detail of sawn cedar log. "My art," says Kadonaga, "is revealing the soul of the tree."

角永は自分で木を摘みますが、工場ですでに伐採された丸太は決して摘み取りません。 代わりに、彼は暖かい衣類に身を包み、冬の雪が地面に降る直前に日本の山岳森林に行きます。 木は切り倒され、彼のスタジオに引き戻されます。 彼と半ダースの非常勤のアシスタントが竹のスクレーパーで樹皮を剥ぎ取ります。

「この時期、木は自然の寒さから保護されているため、木の表面も非常に硬い。 木材が乾燥する前に、樹皮をすばやく剥ぎ取ります。」

実際のカービングも速く行わなければなりません。 そうでなければ、彼は木が割れるようになると言います。 時々これらの亀裂は彼の芸術に追加されますが、より頻繁に作品は台無しにされます。

「視聴者は通常、より大きなログに興奮します」と角永は言います。　「しかし、私にはそれらをすべて行うのは難しい。大小を問わず、すべての作品に独自の問題があります。」

角永は 10 年以上彼の芸術を示してきましたが、彼の家族は彼が何をしているのかまだ理解していないと説明しています。

「私の父は、私の才能を使って座って小さな木の仏像を彫ったら、私をはるかに誇りに思うでしょう」と彼は言います。